

第2回タウンミーティング会議録（質疑応答部分）

会場：ミヤケン元気21 中央公民館

■ 8月22日（土）15:00～16:00 参加人数 96人

（参加者1）『土地利用見直しへの賛成と、災害対策・効果検証・分かりやすい説明』

このテーマについては、パブリックコメントにも意見を提出し、地区ごとの説明会にも3か所程度参加した。そのうえで、今回の土地利用のあり方の見直しについては賛成である。理由としては、市の財政や公共交通の問題に加え、インフラ整備の課題があること、さらに自治会の形成そのものが難しくなっていることが挙げられる。これからの前橋を、こどもや孫たち、そしてこれからの市民に引き継いでいくためには、やらなければならない施策の一つだと考えている。そのうえで、3点提言させていただきたい。1点目は自然災害への対応である。地震については比較的风险が低いと言われている地域だが、線状降水帯のような雨の被害は予測ができない。今回の計画で市街化区域にまちを集めていくという方向は十分に理解しているが、まちなかには大きな川があり、水害の危険性が高い場所も集中しているため、災害対策についてよく検討していただきたい。2点目は定期的な効果検証である。計画を作って、そのまま何十年も進めるのではなく、5年ごとなど定期的に、目標と進んでいる方向がずれていないかを検証していただきたい。3点目は、市民にわかりやすい説明である。都市計画は難しく、資料もホームページの奥の方にあって見つけにくいいため、もっと見やすくしていただきたい。あわせて、数字や金額を使って、このまま進んだ場合にはこれだけ費用が膨らむ、計画を実施すればこれだけ抑えられるといったシミュレーションを示し、定性的な説明だけでなく、定量的な情報発信をしていただきたい。この内容は、都市計画の部署にもパブリックコメントとして提出しているので、ぜひご覧いただきたい。

（市長）

災害に関しては、地震だけではなく、全国的に大雨の被害が起きている。これまでのゲリラ豪雨というイメージよりも、さらに1段階上の雨が降る可能性があるということを、我々行政はもちろん、市民の皆さんにも頭に入れていただきたい。どこに避難したらよいのかということもそうだが、そもそも自分が住んでいる地域がどのくらい冠水しやすいのか、周りに川があってどのような危険があるのかを、それぞれ認識していただいたうえで、雨が降ったときにどう避難するのかを考えていただきたい。一番は危険な場所に住まないということだと思うが、全く住まないというのは難しいので、日頃の生活と避難する場所を用意しておくことが大切になる。ぜひ、ハザードマップと避難所を確認しておいていただきたい。また、それぞれの

町内で、自治会ごとに避難訓練を行っていると思うので、実施しているところはぜひ参加していただき、実施していないようであれば、町内で実施していただくよう声をかけていただけるとありがたい。土地利用の見直しについても、ハザードマップ上で危険性の高い場所に集約するのではなく、当然そうではない場所にまとまりを作っていこうという考えである。効果検証については、今日も市内のいろいろな地域から参加していただいていると思うが、住んでいる町によって状況が全く異なる。地域ごとに、地域の皆さんで、自分たちが住んでいるエリアをどのようなまちにしていきたいのか、どのような課題があるのかを話し合うことが大切だと考えている。効果検証という言い方が適切かどうかは分からないが、地域ごとに住民の皆さんと話し合いができる場を今後作っていくことは重要だと思っているので、そうした機会を検討していきたい。わかりやすく伝えるということについては、計画にしても予算にしても、できるだけ市民の皆さんにわかりやすい形で伝えるとともに、こうした対話の機会を増やしていきたい。

（参加者２）『スズラン閉店後の中心市街地への影響』

９５歳になる私の母が、スズランの近くで一人暮らしをしている。先日発表されたとおり、スズランは１１月で閉店するとのことである。スズランがなくなってしまうと、スズランに通っている高齢の母をはじめ、高齢の方々がかなり不便をするのではないかと感じている。閉店後、スズランの跡地がどうなるのか、分かることがあれば教えていただきたい。

（市長）

難しい質問だが、スズランが今後どうするのかについては、市としては分からないところである。ただ、もともとスズランには前橋の再開発計画に加わっていただいております。現状でも再開発のメンバーに入っている。これから再開発を進めていく中で、どのような結論を出すのかについては、スズランともよく相談しながら進めていきたいと考えている。あわせて、正しく伝わるかどうか分からないが、お伝えしたいことがある。先ほど公共交通の話をしたが、公共交通もみんなが乗らなければ、バス事業者は撤退してしまう。郊外の地域からスーパーや店舗が減ってしまうのも、買い物に行く人がいなくて採算が取れなければ、民間の施設は赤字のまま続けるわけにはいかず、撤退していくことになるからである。街なかについても、多くの皆さんが賑わってほしいと思ってくださっているが、では現状で、スズランが経営を続けていけるだけの人が来てくれているのか、利用してくれているのかというと、昔と比べるとそうではないのではないかと感じている。自分たちが大事にしている場所を守っていく、大事にしているサービスを維持していくためには、みんなで実際に利用して支えていくことが必要ではないかと思っている。市としては、再開発の計画の中で、市役所の隣にある図書館を街なかに移転する。図書館の利用者の方々に来ていただき、図書館で過ごしていただくとともに、街なかにも出ていただきたいと考えて

いる。この建物も同じで、公民館の利用者は非常に多いので、市民の皆さんに来ていただき、その方々に街なかへ出ていただけたらと思っている。行政としては、街なかに人が集まる場所をできる限り寄せていきたいと考えているが、そうした場所を使っていたいたうえで、民間の店舗にも足を運んでもらうことが大事になる。昔から親しんでいる店、思い出のある店もたくさんあると思うので、ぜひ今のうちから足を運んでいただき、みんなでこの店を残していこうという形にしていきたい。回答になっていない回答で申し訳ないが、そのように考えている。

（参加者3）『学校統廃合と避難所、農地活用、マイタクの対象拡大』

3点質問したい。1点目は、学校と災害の関係である。学校は避難所に指定されることが多く、統廃合によって学校がなくなってしまうと、いつ起こるか分からない災害に対して不安を抱えることになる。避難所をどうするのかについて、どのように考えているのか伺いたい。2点目は農地の活用である。私が住む西大室町は農地が多い地域だが、活用しようと言われながら、実際には活用されていない農地が多い。この現状をどのように改善していくのか伺いたい。3点目は、私の職業に関わる提案である。私は病院でがん治療のチームに関わる薬剤師をしているが、点滴の内容によっては、治療後に自家用車を運転できない薬を使うこともある。そのため、通院の際に家族に送迎してもらわなければならない方もいる。マイタクは現在、高齢者が中心の制度になっていると思うが、治療上、運転できない患者にも利用できるようにしていきたい。移動する権利を保障するという意味でも、対象の拡大を提案したい。前橋のマイタクの補助については、患者さんにご案内するとたいへん喜ばれるので、こうした施策をどんどん進めていきたい。

（市長）

災害時の避難所については、大事なことなので、それぞれの地域でどの場所に避難するのか、公民館なのか学校なのかを確認していただく必要がある。ただし、学校の適正規模・適正配置の議論は、災害の際の避難所を残すために行う議論とは、ベクトルが全く異なるものである。現在、地域で検討している小学校の適正配置については、こどもたちのためにどのような環境を作るのがよいのかという視点で進めるべきだと考えている。学校の話は、どこまでいってもこどものために何が一番よいのかという視点で議論したい。本日は具体的な数字は示さなかったが、小学校1年生に入学するこどもの数は減っており、今年の1年生でも1クラス10人程度という学校が出てきている。こどもたちは成長の中で経験することがたくさんあるので、どのような小学校時代、中学校時代を過ごすのがよいのかという観点から、適正規模・適正配置について地域の皆さんと話を進めていきたい。そのうえで、検討の結果、仮にこの小学校がなくなるということになれば、避難場所をどうするのかについては、災害時の安全な避難場所のあり方という観点で、並行し

て検討を進める必要があると考えている。大事な視点だと思っている。農地については、耕作放棄地の問題があり、高齢の農家の方がやめてしまい、その後を引き継ぐ方がいないと耕作放棄地になってしまうケースがある。大室のあたりは比較的平らなので、次の利用者が見つかりやすい地域ではないかと思うが、傾斜地など平らではない農地は耕すのが大変なため、耕作放棄地になりやすいという現状もある。一方で、前橋の農業は非常に頑張っており、新規就農者の方も毎年入ってきていた。地域の中で、本当に良い場所なのにもったいないという農地があれば、農政部門でもしっかり確認していきたい。食は大事なので、生産量も増やしていきたいと考えている。マイタクについては、現在、高齢の方に加えて、介護タクシーとしても使えるため、介護が必要な方や障害のある方も対象となっている。運転免許を返納した方は利用できるが、返納までは至らないものの、薬を投与するときだけ運転できないという方が困っているというケースがあることは、交通政策課へ伝えたい。細かいところまで把握できていないこともあるので、貴重なご意見をいただきありがたい。

（参加者4）『農家の実情、農地利用、井戸水の災害時活用』

農業振興地域の、しかも優良農地のただ中で農業をしている。先ほど、人口が増えないという話があったが、その前に皆さんに知っていただきたいのは、農業をしている80歳、90歳のお年寄りが、国民年金をいくら受け取って暮らしているのかということである。連れ合いが亡くなれば、一人分の国民年金で生活していくことになり、それでも80歳、90歳になっても畑を耕している人がいる。また、私の地域にはたいへん立派な福祉施設があり、そこに委託して農地を耕作していただいている。地区全体で、どれだけの面積がその施設に任されているかというと、およそ40ヘクタールになる。施設の方も非常に頑張ってくださっているが、結局は人員不足で耕作しきれず、耕作放棄状態になっている部分もある。農地を貸した側も、貸したけれども思うようにいかないという声が出ている。私が先ほどの説明とは反対のことを申し上げるのは、私が住んでいる場所は、北は吉岡町、西は榛東村に接し、南は前橋の市街地という位置にあるためである。土地の引き合いはあり、例えば群馬県警の駐在所の関係でも、ここに住みたいので土地を売ってほしいと言われることがあるが、農業振興地域のため売ることができない。私が見ている範囲の高齢の農家の方は、たとえ少しでも土地が売れて、自分が命を終えるまで人に頼らずに生活できるだけのお金がほしいという話をされている。そうしたことも含め、農家の人たちの生き方をもう少し地道に見ていただきたい。また、以前、駐在所の建て替えのために私どもの土地を利用された際には、審査もなく、知らないうちに農地の上に駐在所が建ち、税金だけは私に課されていたということもあった。役所と農家との間のギャップが大きいと感じている。加えて、吉岡町などに家を建てて移っていく人が多く、前橋市が人口を取り損なっている面もあるので、その点も考えていただきたい。最後に災害に関してだが、私が若い頃は、前橋市が井戸水の検査をしてくださっていた。しかし、今は全く行わ

れていない。熊本でも千葉でも水が問題になっているが、市や県が井戸水の検査をしてくれている、いざというときにこの井戸を使ってくださいと言えると思う。検査がないために、そう言えないということも考えている。

（市長）

吉岡町と前橋市は隣接しているため、吉岡町の方に住宅が多く建ち、人が流れているということはあると思う。一方で、農地がどんどん住宅になり、今住んでいるところは高齢の方が住まなくなって空き家が増えていくということが、どこでも同じように繰り返されると将来的に良いまちにはならないのではないかと考えている。できれば、地区の中に空き家があれば、それを利活用していただき、人を増やしていくような形にしていただけるとありがたい。駐在所の建て替えに伴って農地が宅地になったことについては、市というより県とのやり取りになる部分もあるが、今後、手続きがあるのであれば、地目が変わることなどを事前に丁寧にお知らせしたい。全く知らないうちに手続きが済んでしまったということがないようにしたい。井戸については、前橋では現在、井戸を使っている方は少ないのではないかなと思う。ただ、災害の際に水道が止まったときには、井戸を活用することも必要ではないかというご提案をいただくこともある。被災地で使われているものも、基本的には飲み水ではなく、それ以外の生活用水として使われていると思うので、検査がどこまで必要かということも含めて、確認させていただきたい。

（参加者 5）『前橋市と高崎市の広域的な連携』

高崎に事務所があり、仕事の関係で高崎の情報がよく入ってくるため、どうしても頭の中で前橋と高崎を比べてしまう。そうした意味で、前橋と高崎を一緒にして考えればよいのではないかという議論が、以前にもあったように思う。前橋は中核市になっており、政令指定都市を目指すという話もあったが、前橋には新幹線が停まらないなど、細かい課題もある。前橋と高崎を一つにくくって、もっと大きな単位で考え、圏域を大きくして捉えるという考え方について、現在、市としてどのように受け止めているのか伺いたい。

（市長）

市役所の中では、高崎市との合併といった話は全く出ていない。ただ、私が県議会議員であった1期目の頃だと思うが、当時の大澤知事に質問したことがある。地方の時代と言われ、東京一極集中ではなく、地方が権限を持って元気にやっていかなければならないという中で、道州制が大きな話題になった時期であった。北関東と長野、新潟を一緒にして州を作ればよいのではないか、その際に中心になるのは群馬県のはずだから、前橋と高崎が合併して政令市になり、群馬が道州制の州都になるという考えはどうかと質問した。しかし、道州制についても合併についても、大きな自治体になればなるほど具体的な話は進まず、その時は、広域連携をするのが現実的ではないか

という答弁を知事からいただいた。こうしたテーマこそ、その時々、その首長が決めてしまいうものではなく、市民の皆さんとどのような形がよいのかを一緒に考えていくことが大事だと考えている。実際、高崎と一緒にするのは嫌だという方もいると思う。急に一緒にすることはなくても、連携することは今後とても増えていくと思う。高崎と前橋で言えば、特に交通である。高崎駅に着く方が多いので、その方々に前橋へ来ていただくためにどうするかという課題がある。また、まだ話が始まったところではあるが、イオンのあるあたりの旧堤ヶ岡飛行場跡地が今後どのように開発されていくのかという点についても、連携して何かを進めていく可能性がある。いきなり一緒にやるということではなく、まずは行政同士で連携していくことが大事ではないかと考えている。市民の皆さんからも同じようなお話をいただくことがある。特に公共施設について、高崎には立派な施設があるのに前橋にはないのだから、前橋にも作ればよいのではないかと考える方もいれば、35の市町村すべてが同じような施設をそれぞれ作る時代ではないので、良いものはお互いに融通し合って使えばよいのではないかという意見を持っている方もいる。こうした話は、これからもいろいろと聞かせていただきながら進めていきたい。

（参加者6）『広域避難と被災者の受け入れ』

災害の話がたくさん出ているが、現在、熊本地震や千葉の大雨災害が話題になっている。もちろん前橋市内でも時々水害があり、近場のことを一番大事に考えるのは当然だと思う。しかし、熊本地震では車中泊をしていた70代の方が亡くなるということもあった。熊本は海に面しているのだから、船に乗って北海道へでも避難できるようにすればよいのではないかと考えた。そうした広域避難という考え方が、ほとんど検討されていない、あるいは報道が少ないと感じている。全国に47都道府県がある中で、群馬県は移住希望先として全国1位であり、しかも前橋市は県庁所在地である。もちろん、土地から離れられない人や、なりわいがある人もいると思うが、高齢の方が避難所で水もなく、暑い中でみすみす命を落とすようなことになるくらいなら、空き家もたくさんあるので、どうぞ前橋に来てくださいと言えたらどうか。前橋も、いつ災害が起きてどうなるか分からないのだから、全国の各地域で助け合いましょうという形を、前橋から進めてもらいたい。

（市長）

熊本では、10年ほどの間に再び震災が起きてしまい、現地の皆さんはたいへんな思いをされている方が多いと思う。前橋からも職員を派遣しており、市民の皆さんもそれぞれいろいろな形で応援をいただいているのではないかと考える。毎年、地震にしても豪雨にしても、日本中のいろいろなところで災害が起きているが、支援のあり方も年々早くなっている。バラバラに支援するのではなく、まずは熊本であれば九州の近いところから応援に入り、その後、関東、北関東へ応援の要請が来るという形で、必要なところにスピード感を持って支援を届けている状況である。そのため、

現時点で前橋にぜひ避難してくださいと申し上げてはいないが、近隣の市町村や県では、当然、避難する方がいれば受け入れるということをしていると思う。災害がないのが一番だが、経験を積み重ねながら、できるだけ早く皆さんの命が助かる仕組みへと、世の中も進んでいけるとよいと考えている。ただ、その中でも災害関連死という問題があり、経験した方にしか分からないこともあると思う。土地を離れられない理由や、地域とのつながりもあると思うので、しっかりと寄り添いながら検討していきたい。当然、要請があれば、いつでも前橋にどうぞと申し上げたいと考えている。心強いご意見をいただき、ありがたい。

（参加者 7）『統合後の学校跡地・公共施設跡地の活用』

まちづくりという点で、広瀬地区は比較的コアな地域だと思っている。私の母校である天神小学校は、統合によりなくなった。少子化の中で、これは理解できることである。また、卒業した春日中学校も統合により校舎が使われなくなった。そこで伺いたいのは、春日中学校の跡地の利用方法と、すぐ近くにある六供温水プールの跡地の活用についてである。個人的な要望としては、スポーツ施設として、市民の健康向上につながる施設にできればと考えている。広瀬地区は、日本中央バスの路線もあり、前橋大島駅にも近く、団地もあることから、こうした活用が地域全体の活性化につながっていると思っている。あわせて、市民体育館の活用についても、考えがあれば伺いたい。

（市長）

春日中学校の跡地については、すでに赤城病院（医療法人高柳会）に譲渡している。そのため、今後は病院の関連施設になる予定であり、現在、計画や設計を進めていただいているところだと思う。六供の市民プールの跡地については、そこにある水質浄化センターの更新を行う場所として確保している。水質浄化センターの更新は、これから30年ほどかかる見込みであり、一気に移転するのではなく、施設を動かしながら、少しずつプール跡地の方へ移転しつつ更新していくという、非常に大きなプロジェクトになっている。プールがなくなると皆さんが不便になるということもあるので、現在、屋根のボルトが落下して閉鎖している城南コミュニティプールを修繕し、屋根のあるプールとして今後活用していく予定である。広瀬町についてだが、広瀬というと広瀬町を思い浮かべる方が多いと思うが、広瀬地区というと、朝倉町なども含めた、かなり広い地域になる。広瀬町の方へ行けば住宅がたくさんあり、現在、市営住宅・公営住宅の建て替えの話も出ている。これからのまちがどうあるべきかについて、住民の皆さんと一緒に考えていただいているところであり、自分たちが住んでいる地域をどのように盛り上げていくかについて、今回のように関心を持ち、参加していただくことが大事だと考えている。市民体育館については、グリーンウィングスにも使ってもらっており、国スポに向けてもさまざまな競技が開催されるため、市民の皆さんに活用していただく拠点として、今後もしっかり維持していきたい。

（参加者 8）『農業用水路の老朽化と地域管理』

災害と農地に関わる問題として申し上げたい。圃場整備が終わってから半世紀が経ち、水路等が非常に傷んできている。もう一つの問題は、かつては道普請など、地域で共同して行っていた作業ができなくなっていることである。以前はほとんどの人が農家であったため成り立っていたが、現在は高齢化が進み、私自身も高齢者である。農地を手放したり、貸したりしている人も多く、20ヘクタール、30ヘクタールといった規模で耕作している大きな農業法人もあるが、そうしたところでも、水路や農業用水路、舗装されていない農道までは手が回らない。周りをお願いすることも難しくなっている。今日も私は草を刈って整理してきたが、こうした状況が続くと立ち行かなくなる。水路は災害の面でも本当に重要な部分だと思うので、行政が具体的に関わって対応していただきたい。

（市長）

農業用水路については、整備・更新も当然必要になってくるため、更新にかかる費用は毎年しっかり確保し、これまでよりも少し増やししながら、当初予算として確保して実施している。ただし、草刈りや掃除まですべて市役所が税金で行うとなると、農業用水路すべてに費用をかけて管理することになり、いくら税金があっても足りないということになってしまう。現在は、農地の所有者の方に、用水路や田んぼの隣の水路、畦道を管理していただいているが、災害対策という面で見れば、地域の安全を守っていただいているということでもある。したがって、農家の方だけをお願いするのではなく、地域の皆さんで、自分たちが住んでいる地域の中で危険な用水路、ここが詰まると危ないという場所の管理や草刈りなどに協力できる仕組みが作れるとありがたいと考えている。私自身も毎年夏に、朝6時から用水路の草刈りを手伝いに行っているが、高齢の方が中心となって作業しており、危険も伴い大変である。今日も若い方に多く参加していただいているが、草刈りだけ、ごみの取り払いだけといった形でも構わないので、ぜひ協力していただき、みんなで地域の災害対策に取り組もう、一緒に農業をやってみようという仕組みができるとよいと思っている。もちろん行政がやらなければならないところがあるので、そこはしっかり行っただうえで、一緒に考えていきたい。地域に田んぼや畑があり、地域で清掃する機会があれば、ぜひ若い皆さんにも参加していただき、地域の方と一緒に作業を手伝っていただけるとありがたい。

（参加者 9）『移住理由と情報発信』

先ほど、前橋市の移住ガイドブックについてお話があったので、移住について伺いたい。私は総社町に15年ほど住んでいるが、前橋はとても住みやすく、良いところだと思っている。生活の拠点として前橋に移住してくる方はたくさんいらっしゃると思うが、前橋市は農業にも力を入れていると感じるので、新しく農業をしたいという方が住まわれることもあると思う。また、前橋で新しく店を開きたいという理由で住ま

われる方もいると思う。実際には、前橋にはどのような理由で移住されている方が多いのかを伺いたい。

（市長）

私自身も県外から移住してきた立場である。本日の会場でも、仕事の関係で前橋に来て住んでいるという方、実家があるので戻ってきたという方、縁もゆかりもないけれども住んでみて良かったのでそのまま住み着いたという方、結婚してパートナーの実家が前橋だったという方など、いろいろな理由で来られている方がいらっしゃる。現在、移住相談で多いのは、都心部に住んでいる方が、都会ではなく少し離れたところに住みたいというニーズで探しているケースである。特段どうしても前橋というよりも、静岡や群馬など、東京から近い圏内で良いところはないかと探している方が多い。東京で仕事を持っているけれども、テレワークができるので、仕事はテレワークで続けながら住まいを前橋に移すという方もいれば、仕事をリタイアしてから前橋に来られる方もおり、本当にさまざまな理由で移住されている。ただ、前橋に行きたいと思っていただくためには、いろいろな条件を提示することが大事だと考えている。前橋に来れば農業ができる、こういう働く場所がある、住まいもこういうものがあるということをしっかり紹介できる仕組みを作っていくことが重要である。移住の経験がある方、実際に移住してきた方には、住んでみてここが良かったということ、ぜひたくさん発信していただけると嬉しい。

（参加者 10）『空き家等管理活用支援法と空き家バンクの違い』

移住して4年目で、今年5年目に入る。ちょうど移住した理由という話が出ていたが、私は自然がとても良いところだったので住んだが、それ以上に人が非常に優しく、移住して良かったと実感している。質問は、本日の資料の最後のページにある空き家についてである。私の長男は東京にいるが、先日、長男と電話で話したところ、認知症になる前に家はきちんと処分しておいてほしいと言われた。これはもったいと思った。本人は相続を全く考えておらず、面倒なことは残すなということであり、そのとおりだと思う。馴染みにしている不動産店にも相談したところ、いつでも相談に乗るが、まだまだ大丈夫でしょうという話であった。そのうえで、本日の説明の中にあつた「空き家等管理活用支援法人」について伺いたい。私は勉強不足で、今日初めて聞いた名前だが、これは空き家バンクと何が違うのか。今後、ここに相談すれば、売買や処分の仕方などについて、どのように対応してもらえるのか。また、いつから始まるのか、いつ周知されるのかについても教えていただきたい。私自身も活用できるのであれば活用したいと思っている。

（市長）

空き家等管理活用支援法と空き家バンクの違いについてだが、空き家バンクは、比較的動かしやすい空き家、つまりある程度状態が良く、売主・買主や借り手が決

まりそんな物件が登録されているものが多い。前橋市のホームページにも空き家バンクの物件がいくつか掲載されているが、数としては本当に限られたものしか出ていない状況である。連携している不動産事業者に協力していただき、登録をしてもらっている。空き家等管理活用支援法人は、そうした状態の良い空き家だけではなく、そもそもこれからどうしたらよいのだろうかという相談や、空き家として活用するだけでなく、解体するにはどうしたらよいのかといった相談まで、課題も含めて幅広い視点で対応できる仕組みとする予定である。行政だけで行うのではなく、民間のさまざまなノウハウを活用して、早めに相談に乗っていただき、利活用につなげられるような仕組みを整えていきたい。今年の秋ごろにはスタートできると思っており、ちょうど募集を行い、複数の法人から応募をいただいたところで、募集自体は締め切っている。今後、支援法人を指定させていただき、秋ごろからこの制度がスタートするので、空き家をお持ちの方、また身近に空き家で困っている方がいれば、こうした制度ができたことをお知らせいただきたい。もちろん、市としてもしっかりと周知していく。空き家は、なかなか自分ごとになりにくいところがある。突然相続で空き家を持つことになった場合を除けば、身の回りの空き家に注目する機会は少ないと思うが、実は法律もこのところ変わってきている。これまで、相続した建物について、誰が相続するかが決まるまで登記されずに置かれていることが多かったが、現在は相続人が相続登記をしなければならないという義務が課されるようになった。また、これまでは住んでいなくても土地の上に建物が建っていれば、固定資産税が減免されていたが、建物が建っていても、老朽化して管理が行き届かない空き家になってしまうと、更地と同じだけの税金がかかるようにできるという形に法律が変わってきている。空き家を持ったときには放置してはいけないということを、空き家の所有者の皆さんにはもう少し強く意識していただきたい。最後は少し脅かすような話になってしまい申し訳ないが、そうしなければ、空き家が増える一方で適切に管理されないということになるため、前橋から空き家の利活用がなるべく進むようにしていきたい。

以上